

日 本 人 胸 腹 壁 静 脈

(第二回報告)

胸腹壁ノ深在静脈

京都帝國大學醫學部解剖學教室〔主任木原教授〕

内 藤 永 二

Die Venen der Brust- und Bauchwand der Japaner.

(2.Mitteilung.) Die tiefen Venen der Brust- und Bauchwand.

Von

Dr. Eiji Naito.

[Aus dem anatomischen Institut der Kaiserlich-Japanischen Universität
zu Kyoto. (Vorstand. Prof. Dr. T. Kihara.)]

Das Material besteht aus 58 venös injizierten Japanern. Bei der V. mammaria interna, mit Ausnahme ihrer Einmündungsstelle, sind ausserdem 24 nicht injizierte Leichen benutzt worden. Die Hauptzüge der Untersuchung lassen sich kurz wie folgt zusammenfassen :

1) Die V. mammaria int. ist zu 97.3% in ihrem distalen Teil doppelläufig, im proximalen einfach. Die Stelle, wo die Doppelvele zur einfachen wird, findet sich am häufigsten im 3. Intercostalraum (22.2%). Zu 2.7% ist sie dagegen in ihrem ganzen Verlauf einfach.

2) Eine einfache V. mammaria interna findet sich zu 95.2% medial, zu 4.8% lateral von der gleichnamigen Arterie.

3) Die V. mammaria int. sinistra mündet ausnahmslos in die V. anonyma sinistra, die V. mammaria int. dextra zu 42% in die V. anonyma dextra, zu 6% in die V. cava superior oder in die Vereinigungsstelle der Vv. anonymae (52%).

4) Die V. epigastrica inferior mündet zu 97.2% dicht hinter dem Lig. inguinale in die V. femoralis, zu 2.8% in die V. iliaca externa.

5) Die doppelläufige V. epigastrica inf. mündet in ihre Muttervenen : Zu 84% durch die Vereinigung zu einem 5—15 mm. langen Stamm, zu 16% dagegen ohne diese Stammbildung, also einzeln, direkt.

6) Bevor die V. epig. inf. in die V. femoralis mündet, nimmt die erstere die V. circumf. ilium prof. auf (91.6%).

8) Einige Venen, welche aus den peritonealen Venennetzen stammen, verlaufen

zwischen dem M. transversus abdominis und M. obliquus abdominis int. von dem Seitenbauch her parallel und horizontal medianwärts (Rami transversi profundi). Diese Venen durchsetzen in verschiedener Höhe den M. rectus abdominis und münden in die V. epig. superior und inferior.

9) Der Richet'sche Nabelkanal ist 100—110 mm lang.

10) Die Vv. parumbilicales, jederseits eine Vene, verlaufen, je eine feine Arterie begleitend, an den beiden Seiten des Lig. teres hepatis. In ihrem Verlauf anastomosieren sie mehrfach miteinander, wodurch das Ligamentum umspannen wird.

11) Die Vv. parumbilicales und die Hautvenen (Vv. epigastricae superficiales) kommunizieren nicht, wie gewöhnlich angegeben, direkt miteinander, sondern indirekt durch die Vermittelung der V. epig. inf.

12) Die V. parumbilicalis xyphoidea kommuniziert proximal mit der V. mammaria int., distal mit verschiedenen Venennetzen der Vorderbauchwand, des Peritoneum, des Zwerchfells und des Lig. falciforme hepatis.

13) Hinter der Symphysis pubis findet sich ein meist einen schwachen Arterienast begleitender, quer gestellter Venenast (Ramus transversus pubicus). Dieser kommt wenigstens zu 93.1% (nach der Leichenzahl) vor. Er mündet lateralwärts zu 91.6% (nach der „Seitenzahl“) in die V. epig. inf., zu 8.4% direkt in die V. femoralis oder V. iliaca ext.

内 容 目 次

第一章 緒 論

第二章 材料並ニ研究方法

第三章 各例要項記載表

第四章 總 括 附圖説明

第一章 緒 論

日本人ノ胸腹壁皮下靜脈ノ統計的觀察ハ既ニ第一回(日本外科實函第八卷第三號⁴⁶⁷⁻⁵²²)ニ於テ報告セリ、依テ茲ニ其深在靜脈ニ就テ、第二回報告トシテ之ヲ發表セントス。

翻ツテ案ズルニ、日本人ノ胸腹壁ニ於ケル深在靜脈ハ余ノ多數實例ニ於テハ既ニ成書ニ記載サレタル外國人ノ夫レト大差ナキヲ以テ、余ハ其主要ナル幹ノ一般ヲ只總括的紀載ニ止メ、夫レ等靜脈ニ就テ未ダ意見ノ一致セザル點ヲノミ詳細ニ調査シ、統計的觀察ニヨリテ其決定ヲナサント欲ス。之蓋シ人類學上、他日外人ノ統計的觀察ノ結果ト比較研究スルノ資料ヲ提供センガタメノミナラズ、臨床上ニモ其解剖學的關係ガ種々ナル意義ヲ有スレバナリ。

第二章 材料並ニ研究方法

材料トシテハ當教室ニ於ケル別表記載ノ日本人大人屍體58屍^{♂₄₃ ♀₁₅}及ビ朝鮮人3屍^{♂₃ ♀₀}ヲ以テシ、之ニ第一回報告中ニ掲載シタル注入法ヲ施シテ使用シタリ。其他ニ參考トシテ病理解剖後ノ日本人屍體24屍^{♂₁₄ ♀₁₀}ヲ用ヒタリ、但シ之ニハ注入ヲ施サズ、然レドモ材料新

鮮ニシテ血液ノ充滿シ居ル事一ヨリテ血管走行ヲ能ク認識スル事ヲ得タリ。

統計的觀察ニ際シ朝鮮人三屍ハ勿論之ヲ統計數ヨリ除外セリ。「計測ハ實測シタルモノ
シテ總テ密米單位ヲ用ヒタリ。其他ノ方法ハ總テ第一回報告ニ基ケリ。

各例ノ「プロトコル」ヲ掲載スルコトハ其必要ヲ認メザルヲ以テ茲ニハ之ヲ省略スルト雖
モ其主要ナル事項ハ之ヲ次表ニ示スベシ。

第三章 各例要項記載表

(第 一 表)

次ノ第一表ニ於テハ當解剖學教室ニ於ケル完全ナル注入屍體ヨリ得タル結果ヲ記入セリ。

注意 { ×無名靜脈分枝點ニ開口スルモノヲ示ス ◎内乳靜脈ノ終始單一ナルモノヲ示ス
△右内乳靜脈ノ上空靜脈ニ開口スルモノヲ示ス ▲重複セル下腹壁靜脈ガ母幹ヘ各別々ニ入ル
モノヲ示ス * 内乳靜脈ガ内乳動脈ヨリ外側ニアルモノヲ示ス /ハ不明ナルモノヲ示ス
+内乳靜脈ガ内乳動脈ヨリ内側ニアルモノヲ示ス

例 番 號	屍 體 番 號	屍 體 年 齡 性 別	死 因	側	下腹壁靜脈ノ重複セルモノガ合點トノ距離及其狀況(實測)	横行耻骨枝ガ下腹壁靜脈ニ開口スル點トノ距離及其狀況(實測)	深在腸骨廻旋靜脈ガ下腹壁靜脈ニ開口スル點トノ距離及其狀況(實測)	内乳靜脈ト同名動脈トノ關係	内乳靜脈ノ兩脚ガ單一化スル點ノ高サ及狀況	内乳靜脈ノ開口スル母幹ノ名稱	Richet'sche. Nabel-canalノ長サ
1	八七七一	54♂	縊死	左	5mm.	5mm.	/	+	V肋間腔	左無名靜脈	100 mm.
				右	9	4	/	+	IV肋骨後面	×無名靜脈分枝點	
2	八六六七	67♀	腎臟病	左	41	9	/	/	/	/	/
				右	41	12	/	/	/	/	/
3	八六六五	45♂	肺結核	左	40	15	/	+	III肋骨後面 上緣	左無名靜脈	/
				右	15	5	/	+	II肋間腔	右	/
4	八八一三	27♀	肺結核	左 (各別) 二ツハ外腸骨靜脈ニ入ル	直接股靜脈ニ開口ス	/	/	+	IV	左	93
				右	56	8.5	/	+	III	×無名靜脈ノ分枝點	
5	八八一	41♀	肺結核	左	31	5	/	+	◎終始單一	左無名靜脈	99
				右	31	直接股靜脈ニ開口ス	/	+	◎同上	×無名靜脈分枝點	
6	八八一六	40♀	肺結核	左	37	5	/	/	/	/	63
				右	5	直接股靜脈ニ開口ス	/	/	/	/	
7	八七二九	61♂	振顫麻痺	左	/	7	/	/	/	/	/
				右	50	5	/	/	/	/	/
8	八八一八	24♀	肺結核	左	/	5	/	* 靜脈ガ外ニ在リ	II肋骨後面 上緣	左無名靜脈	76
				右	32	6	/	+	II肋間腔	右	
9	八七五五	49♂	急性腦膜炎	左	29	3	/	+	II	左	/
				右	30	4	/	+	II	右	/

10	八八〇二 8	肺結核	左 右	／ 63	6 直接股靜脈へ 開口ス	／ ／	／ ／	I 肋骨後面 上縁	左 右	／ ／	／
11	八八一四 20 8	肺結核	左 右	／ 2	7 3	／ ／	／ +	I 肋間腔	／ ／	／ ／	74
12	八七六五 23 8	肺結核	左 右	43 60	直接股靜脈開口	／ ／	* 靜脈外側 = 在リ	I 肋骨後面 上縁	左無名靜脈 右	／ ／	70
13	八七六一 70 8	腸潰瘍 十二指腸	左 右	47 ／	6 5	／ ／	＋ ＋	III 肋骨後面 上縁	左 右	／ ／	72
14	八七七八 23 8	早發性 癱瘓	左 右	38 38	／ ／	／ ／	＋ ＋	II 肋骨後面 上縁	左 右	／ ／	51
15	八八一九 31 8	早發性 癱瘓	左 右	14 10	3 9	／ ／	／ ／	／ ／	／ ／	／ ／	70
16	八七九八 46 8	肺結核	左 右	20 58	35 50	／ ／	＋ ＋	III 肋間腔	左無名靜脈 × 無名靜脈分 枝點	／ ／	60
17	八六七四 56 8	肺結核	左 右	15 10	6 5	／ ／	＋ * 靜脈外側 = 在リ	IV 肋骨後面 上縁	左無名靜脈 右	／ ／	107
18	八六五七 31 8	刑死	左 右	7 各別	11 10	／ ／	＋ ＋	IV 肋骨後面 上縁	左 右	／ ／	85
19	八八〇九 16 8	肺結核	左 右	4 ／	6 ／	／ ／	＋ ＋	III 肋骨後面 上縁	左 右	／ ／	／
20	八八〇六 35 8	精神錯亂	左 右	7 8	／ ／	／ ／	＋ ＋	II 肋骨後面 上縁	左 右	／ ／	84
21	八六九五 47 8	慢性氣管 炎	左 右	13 45	16 12	／ ／	＋ ＋	III 肋間腔	左無名靜脈 × 無名靜脈分 枝點	／ ／	110
22	八六八八 25 8	腸出血	左 右	5 30	7 17	／ ／	＋ ＋	II 肋骨後面 上縁	左無名靜脈 × 無名靜脈分 枝點	／ ／	104
23	八七一〇 50 8	癱瘓性 症	左 右	9 各別	直接股靜脈 = 開口	／ ／	＋ ＋	IV 肋骨後面 上縁	左無名靜脈 右	／ ／	80
24	八六九七 59 8	右慢性潰瘍 下腿	左 右	各別 7	／ 2	／ ／	＋ ＋	III 肋間腔	左 右	／ ／	106

25	八 六 五 九	37 ♂	麻痺性痴呆	左	6	7	/	* 静脈外側 = 在り	Ⅱ 〃	左 〃	90
				右	9	14	16	+	Ⅶ 〃	右 〃	
26	八 六 八 五	40 ♂	麻痺性痴呆	左	10	3	7	+	Ⅱ 肋骨後面	左 〃	/
				右	53	17	7	+	Ⅳ 〃	右 〃	
27	八 六 六 二	29 ♂	腹膜炎	左 △各 別	5	6	+	+	Ⅲ 肋 間 腔	左 〃	113
				右	35	直接股静脈 = 開口	12	+	Ⅴ 〃	× 無名静脈分 枝點	
28	八 七 六 二	66 ♂	腦溢血症	左	8	5	/	+	Ⅰ 〃	左 無名静脈	/
				右 △各 別	/	/	/	+	Ⅱ 〃	右 〃	
29	八 六 七 三	73 ♀	慢性腎臟炎	左	43	8	/	+	Ⅱ 〃	左 〃	110
				右	44	9	/	+	Ⅱ 〃	右 〃	
30	八 七 四 一	22 ♂	肺結核	左	10	7	9	+	Ⅴ 肋骨後面 下緣	左 〃	104
				右	69	9	3	+	Ⅵ 肋 間 腔	右 〃	
31	八 七 六 四	47 ♂	肺炎	左	7	10	/	+	Ⅱ 〃	左 〃	/
				右 △各 別	15	/	/	+	Ⅰ 〃	△ 上空静脈 / 上端	
32	八 七 〇 五	43 ♂	脊髓癆	左	5	16	/	+	Ⅱ 〃	左 無名静脈	107
				右	31	7	/	+	Ⅲ 肋骨後面 上緣	右 〃	
33	八 六 五 三	27 ♀	急性肺炎	左	/	/	7	+	Ⅱ 肋 間 腔	左 〃	80
				右 △各 別	6	/	/	+	Ⅲ 〃	× 無名静脈分 枝點	
34	八 六 七 七	51 ♂	脚氣	左	14	直接股静脈 = 開口	5	+	Ⅳ 〃	左 無名静脈	95
				右	30	36	10	+	Ⅴ 〃	× 無名静脈分 枝點	
35	八 六 七 九	31 ♂	精神病	左	38	/	/	+	Ⅱ 〃	左 無名静脈	/
				右 △各 別	/	/	/	+	Ⅲ 肋骨後面 下緣	× 無名静脈分 枝點	
36	八 六 八 九	32 ♂	心筋炎	左	/	/	/	+	Ⅲ 肋 間 腔	左 無名静脈	94
				右	35	9	/	+	Ⅲ 〃	× 無名静脈分 枝點	
37	八 七 八 六	46 ♂	微痺性痴呆	左 △各 別	5	8	+	+	Ⅲ 〃	左 無名静脈	122
				右 △各 別	/	/	/	+	Ⅱ 〃	× 無名静脈分 枝點	
38	八 七 一 四	49 ♂	肝硬變症	左	5	9	10	+	Ⅳ 肋骨後面 上緣	左 無名静脈	100
				右	4	110	10	+	Ⅳ 肋 間 腔	× 無名静脈分 枝點	
39	八 六 二 九	36 ♂	麻痺狂	左	13	7	9	+	Ⅲ 〃	左 無名静脈	105
				右	12	11	15	+	Ⅲ 肋骨後面 下緣	× 無名静脈分 枝點	

40	八七八四 61♀	皮膚病	左	/	/	/	+	V 肋間腔	左無名靜脈	/
			右	8	/	/	+	V "	×無名靜脈分枝點	
41	八七九〇 42♂	麻痺性痙攣	左	9	/	8	+	II "	左無名靜脈	112
			右	8	9	8	+	III 肋骨後面 上緣	×無名靜脈分枝點	
42	八六四六 19♂	肋膜炎	左	20	/	17	/	/	/	125
			右	8	13	9	/	/	/	
43	八七五八 26♂	膀胱炎及 腎臟炎	左	△各別	7	5	+	I 肋骨後面 上緣	左無名靜脈	105
			右	6	6	7	+	I "	右 "	
44	八六九八 56♂	腦溢血症	左	各別	4	/	靜脈外側 =在リ	III 肋間腔	左無名靜脈	122
			右	45	8	5	+	III "	×無名靜脈分枝點	
45	八七四三 62♂	早發性 癱瘓	左	/	6	8	+	III 肋骨後面 上緣	左無名靜脈	99
			右	△各別	4	7	+	I "	×無名靜脈分枝點	
46	八七八一 61♀	腦出血症	左	47	7	/	靜脈外側 =在リ	III 肋間腔	左無名靜脈	118
			右	6	9	/	* 同上	IV "	右 "	
47	八七四八 28♂	心瓣膜症	左	48	/	/	+	III "	左 "	112
			右	△各別	4	12	+	II "	×無名靜脈分枝點	
48	八七三七 40♂	肺結核	左	10	10	20	+	II 肋骨後面 上緣	左無名靜脈	136
			右	10	19	12	+	III 肋骨後面	×無名靜脈分枝點	
49	八八三九 21♂	肋膜炎	左	13	13	/	+	II 肋骨後面 下緣	左無名靜脈	/
			右	11	6	5	+	II 肋間腔	△上空靜脈上部	
50	八七一五 40♂	精神病	左	7	10	直接股靜脈 = 開口	+	III "	左無名靜脈	136
			右	△各別	12	19	+	IV "	×無名靜脈分枝點	
51	八七二三 42♀	早發性 癱瘓	左	7	/	/	+	II 肋骨後面 下緣	左無名靜脈	112
			右	7	7	12	+	III 肋骨後面	右 "	
52	八七二七 27♀	心瓣膜症	左	9	12	6	+	II 肋骨後面 下緣	左 "	130
			右	△各別	10	7	+	III " 上緣	×無名靜脈分枝點	
53	八七〇七 28♂	肺結核	左	13	5	7	+	III 肋骨後面 上緣	左無名靜脈	/
			右	10	12	10	+	◎終始單一	×無名靜脈分枝點	
54	八七八五 57♂	肺結核	左	8 ブ氏検査ヨリ 上方ニアリ ニ入ルモノ	6	9	+	III 肋骨後面 上緣	左無名靜脈	87
			右	10	13	8	* 靜脈外側 =在リ	III 肋骨後面 下緣	×無名靜脈分枝點	

朝鮮人	55	三八四二	35♀	肺結核	左	5	20	13	/	/	/	114
					右	13	10	8	/	/	/	
	56	三八〇七	65♂	急性腸塞	左	11	18	/	+	Ⅲ 肋間腔	左無名静脈	/
					右	14	/	/	+	Ⅱ "	△上空静脈上端	
	57	三八二八	23♂	肺結核	左	13	/	3	+	Ⅲ "	左無名静脈	97
					右	28	9	13	+	Ⅲ "	×無名静脈分枝點	
	58	三八三二	19♂	肺結核	左	8	4	/	/	/	/	128
					右	7	5	15	/	/	/	
	1	八七八〇	25♂	左肋膜炎	左	/	/	/	/	/	/	106
					右	/	/	/	/	/	/	
	2	八三八八	41♂	腸捻轉	左	△各 別	10	14	+	Ⅳ 肋骨後面 上縁	左無名静脈	/
					右	/	/	/	* 静脈外側 =在リ	Ⅲ 肋骨後面 下縁	右 "	
	3	八六五四	/♂	肺結核	左	5	6	7	/	/	/	132
					右	8	8	7	/	/	/	

第 二 表 注(符合ハ前表ト同意ナリ
意 注入セザル屍體ヨリ得タル結果ヲ記入ス)

例 番 號	屍 體 解 剖 番 號	年 齡 性 別	死 因	側 名	内乳静脈ト 同名動脈ト ノ關係	内乳静脈ノ兩脚 ガ單一化スル會 合點ノ高サノ部 位及ビ其狀況	例 番 號	屍 體 解 剖 番 號	年 齡 性 別	死 因	側 名	内乳静脈ト 同名動脈ト ノ關係	内乳静脈ノ兩脚 ガ單一化スル會 合點ノ高サノ部 位及ビ其狀況
59	五二七四	二〇♀	萎縮性腎	左	+	Ⅲ 肋骨後面	65	五二五五	一六♂	壓迫性	左	+	Ⅳ "
				右	+	Ⅳ 肋間腔					右	+	Ⅰ "
60	五二四八	九♀	リツトル病	左	+	Ⅲ "	66	五二五六	四四♀	僧帽癰症	左	+	Ⅳ 肋骨後面上縁
				右	+	Ⅰ 肋骨後面上縁					右	+	Ⅴ 肋骨後面上縁
61	五二七一	一ヶ月♀	鞏硬浮腫	左	+	Ⅱ 肋間腔	67	五二七三	三三♂	肺結核	左	+	Ⅰ 肋骨後面上部
				右	+	Ⅳ 肋骨後面上縁					右	+	Ⅲ 肋骨後面上縁
62	五二七〇	五五♀	直腸癌	左	+	Ⅲ 肋骨後面上縁	68	五二七八	一四♂	腸閉塞	左	+	Ⅳ 肋骨後面上縁
				右	+	Ⅱ 肋間腔					右	+	Ⅴ 肋間腔
63	五二四一	二一♂	癰瘻	左	+	Ⅵ "	69	五二八四	二九♂	肺並ニ喉頭結核	左	+	Ⅲ 肋骨後面上縁
				右	+	Ⅲ "					右	+	Ⅰ 肋間腔
64	五二七二	三九♀	慢性骨髓	左	+	Ⅱ "	70	五二八三	二〇♀	腸癒着症	左	+	Ⅳ "
				右	+	Ⅲ "					右	+	Ⅴ "

71	五二八二	三五〇	／	左	+	Ⅳ	ノ	77	五二八七	一七八	尿管症	左	+	Ⅲ 肋骨後面上縁
				右	+	Ⅲ	ノ					右	+	Ⅲ 肋間腔
72	五二七九	三九〇	バゼト病	左	+	Ⅲ 肋間腔		78	五二九〇	四〇九	側前置胎盤在性	左	+	Ⅱ 肋骨後面下縁
				右	+	Ⅲ 肋骨後面上縁						右	+	Ⅲ 肋骨後面
73	五二七七	二六〇	急性盲腸炎	左	+	Ⅱ 肋間腔		79	五二九一	三九〇	腹腔妊娠	左	+	Ⅲ 肋骨後面上縁
				右	+	Ⅳ 肋骨後面上縁						右	+	Ⅰ
74	五二七五	五八〇	萎縮性腎心筋變性	左	+	Ⅳ	ノ	80	五二九三	三九〇	肝臓腫瘍	左	+	Ⅱ 肋間腔
				右	+	Ⅳ	ノ					右	+	Ⅱ
75	五二七六	一五〇	肝臓肉腫	左	+	Ⅲ 肋間腔		81	五二九四	四〇九	子宮癌	左	* 靜脈外ニ在リ	Ⅱ 肋骨後面上縁
				右	+	Ⅱ	ノ					右	+	Ⅲ
76	五二八五	三八〇	腸閉塞	左	+	◎終始單一		82	五二九九	四一〇	尿管狹窄症	左	+	Ⅲ
				右	+	Ⅳ 肋間腔						右	+	Ⅲ 肋間腔

第四章 總 括

上表ニ於テ各靜脈幹ニ種々ノ破格アルヲ見出シ得ベシ、今之ヲ統計的ニ總括スル時ハ次ノ如シ。

1). 下腹壁靜脈 (V. epigastrica inferior) ノ經路ハ常ニ臍ノ高サヨリ下方ニ向ツテ直腹筋纖維ノ肉間ヲ走行シ、半環狀線ノ部ノ高サニ達シテ直腹筋ノ外縁ニ顯ハレ、斜ニ下外方ニ走り母幹ニ開口ス。其母幹ハ一定セズ、即チ股靜脈ノ上端「ブ」氏靱帶ノ直後ニ開口スルモノアリ。〔107側^{58屍即チ}(_{116側中不明9側})中104側97.2%〕又外腸骨靜脈ニ開口スルモノアリ〔107側中3側2.8%〕。

彼ノ W. Braune (Das venensystem des menschlichen Körpers. 1884) ガ記載セル如ク卵圓窩ニ又ハ大サフエナ靜脈ニ入ルモノハ余ハ一例ヲモ認メ得ズ。

2). 下腹壁靜脈ハ同名動脈ニ伴フ重複性ノモノ一シテ、其下方部分ハ二本ガ各個々ニ母幹ニ開口スルモノアリ 106側^{左50}(_{右56}^{58屍(116側)}_{中不明10側})中17側^{右11}(_{左6} 少ナクモ16.%)、又其母幹ニ開口スルニ先ダチテ合シテ單幹トナリテ開口スルモノアリ〔106側中89側^{右44側}(_{左45側} 少ナクモ84%)〕。

3). 重複セル下腹壁靜脈ガ單一幹トナル高サハ各屍ニヨリテ一定セズ、即チ二本ノモノガ單幹トナル、其合一點ト母幹ヘノ開口部トノ距離ハ左右側共ニ (別表※ニ示ス如ク一シテ) 5乃至15mmノモノ最多シ。

4). 下腹壁靜脈ニ關聯スル靜脈ハ數種アリ、其内一テ重ナルモノヲ列舉スレバ次ノ如シ。

1). 此靜脈ト下腹壁皮下靜脈 (V. epig. superf. inf.) トノ交通枝ハ、臍ノ周圍ニ存スル皮

※

距 離	頻 度
1—5mm.	3
5—10 "	29
10—15 "	20
15—20 "	2
20—25 "	2
25—30 "	2
30—35 "	7
35—40 "	6
40—45 "	6
45—50 "	5
50—55 "	2
55—60 "	2
60—65 "	2
65—70 "	1

下脂肪組織及ビ直腹筋前葉ヲ穿通シ又或物ハ直腹筋腱牙ノ部ヲ穿通シテ直腹筋纖維間ニテ連絡ス。

ロ)、此静脈ト臍旁静脈 (V. parumbilicalis) トノ直接連絡ハ常ニ之ヲ見出ス、此連絡ニヨリテ臍旁静脈ハ間接ニ腹壁皮下静脈トノ連絡ヲナス。(臍旁静脈ト下腹壁皮下静脈トノ直接連絡ハ之ヲ存セズニ關シテハ臍旁静脈ノ條下ニ於テ詳述スベシ。)

ハ)、此静脈ノ下端ガ母幹ニ開口スルニ先ダチ横走耻骨枝 (Ramus transversus pubicus) ガ連絡ス 87例^{〔116例(58屍中) 不明 29例〕} < 右45例 左42例 75%アリ。

ニ)、此静脈ノ下端ガ股静脈ニ開口スルニ先ダチ深在腸骨廻旋静脈 (V. circumflex, ilium profunde) ガ開口ス {42例^{〔116例(58屍中) 不明 74例〕} 中41例 < 右23例 左18例 97.6%} 而シテ其開口部ト下腹壁静脈下端ガ股静脈ニ開口スル部トノ距離ハ5乃至10mmノモノ最多シ。
ホ)、深在横行枝 (Rami transversi Profundi)、ハ(7)ヲ見ヨ。

5). 上腹壁静脈 (V. epigastrica superior) ノ経路ハ常ニ前腹壁ノ深部ニ於テ存シ、臍ノ附近ニテ細キ枝ヲ以テ下腹壁静脈ニ連続シ、同名動脈ト共ニ直腹筋纖維ノ肉間ヲ筋鞘ノ後葉ニ近ク上昇シテ心窩部季肋縁ニ達シ、劍狀突起ト之ニ隣レル肋軟骨弓トノ間ニテ前胸壁ノ後面ニ入り、太キ口徑トナリテ内乳静脈 (V. mammaria interna) ニ移行ス。

6). 上腹壁静脈ト關聯スル静脈ハ二三アリ、其内ノ主ナルモノハ次ノ如シ。

1)、心窩部劍狀突起附近ニテ上腹壁皮下静脈 (V. epig. superfi. superior) (第一回報告) ノ大部分ノモノノ上端ガ穿孔シテ、直腹筋纖維肉間ニテ此上腹壁静脈ト連絡スルモノナリ。
ロ)、深在横行枝 ((7)ニ記載スベシ)。

7). 深在横行枝 (Rami transversi profundi) 主トシテ腹膜組織ノ静脈網ヨリ初マリ、側腹部ニ於テ横腹筋ト斜腹筋トノ間ヲ殆ンド地平ニ正中線ニ向ッテ略ボ相並行シテ走レル數條ノ静脈ニシテ多クノモノハ下腹壁静脈ノ直腹筋纖維間ヲ經過中、種々ノ高サニ於テ之ニ注ギ、只上部ノ少數ノミガ上腹壁静脈ニ入ル。

8). 臍旁静脈 (V. parumbilicales) (Sappey) ガ肝圓靱帶 (Lig. teres hepatis) ニ沿フテ走レル此静脈ノ記載ニ於テ未ダ頗ル悉サザルモノアリ、就中其下端ニ於テハ皮下静脈トノ關係ニ於テ然リトス。余ノ觀察ニ從ヘバ次ノ如シ。(第一圖參照)

1)、臍旁静脈ハ元來其數二條ニシテRichet'scher Nabelcanal (其長サ100—110mmヲ最通常トス) ニ於テハ肝圓靱帶ノ左右兩側ニ於テ各一條トシテ存在ス。(但シ細小ナル動脈之ニ伴フ)。此二條間ニハ肝圓靱帶ノ前側及ビ後側ニ於テ各數條ノ細キ吻合枝ヲ有シ恰モ此靱帶ヲ纏絡セルガ如キ觀ヲ呈ス。

ロ)、Richet'sche Nabel-Canal ノ下端ニ於テハ左右ノ主幹ハ各其側ノ横筋膜 (Fascia trans.)

ヲ穿通シテ臍ニ近ク其外側ニ來リ下腹壁靜脈ニ注グ。又臍ノ下緣ニ沿フテ左右側ノモノヲ連絡スル吻合枝ガ横走ス。

9). 從來ノ記載ニヨル時ハ臍ノ附近ニ於テ臍旁靜脈ハ皮下靜脈ト直接交通ストアリ。故ニ余ハ特ニ此直接交通ヲ見出スニ努メタレドモ此ノ現象ハ一回モ遭遇セズ。只皮下靜脈ガ下腹壁靜脈ト直接連絡スルヲ以テ臍旁靜脈ハ此下腹壁靜脈ノ媒介ヲ以テ初メテ間接ニ皮下靜脈ト交通セルモノナル事ヲ常ニ認ムルモノナリ。(第一圖參照)

10). 肝圓靱帶ガ彎曲シテ腹腔内ニ穿入スルニ當リ、其彎曲部ニ於テハ臍旁靜脈ハ各其側ノ臍旁劍狀靜脈 (V. parumbilicalis xyphoidea) ノ下端ト吻合ス。

11). 臍旁靜脈ガ腹腔内ノ肝圓靱帶ニ沿フテ走ル狀態ハ茲ニ詳記スル能ハズト雖モ特ニ記スベキハ肝鎌狀靱帶 (Lig. falciformis hepatis) ノ兩葉間ニ靜脈ノ密網ノ存在スル事ナリ。而メ此網ハ肝鎌狀靱帶ノ前緣及ビ下緣ニ於テ小集合幹ヲ作り肝臟ノ前緣ニ於テ臍旁靜脈ニ注グ。(第二圖參照)

12). 臍旁劍狀靜脈 (V. parumbilicales xyphoidea.) モ亦小動脈ト相伴フ、其經路ハ心窩部正中線ノ兩側ニ沿フテ走レル各一條ノ靜脈ニシテ腹膜前面ヲ縱走ス。上部ニ於テハ劍狀突起前面ヲ走り、此面ヲ横走スル内乳靜脈ノ吻合枝ニ開口ス、而メ其開口ニ先ダチ兩側間ニハ小吻合アリ。下端ハ Richet'sche Nabelcanal ノ上端ニ於テ各其側ノ臍旁靜脈ニ連續ス。(第一圖參照及第三圖 Fig. 6 參照)

13). 臍旁劍狀靜脈ハ心窩部ニ於ケル腹膜ノ靜脈網ト連絡ス、又上方部分ノ一枝ハ劍狀突起部ノ前面ヨリ其突起ニ存スル孔ヲ通ジテ其後面ニ至リ、横隔膜ノ靜脈網ト連ル、其他肝鎌狀靱帶ノ靜脈網トモ連絡ス。

14). 横行耻骨枝 (Ramus transversus pubicus.) ハ耻骨縫際ノ腹腔側ニ於テ横走スル一條ノ靜脈ヲ云フ。存在率ハ 55屍 (^{58屍中}不明^{3屍}) 少ナクモ93.1%ナリ。(屢々動脈ヲ伴フヲ見タリ) 時ニハ比較的口徑ノ太キモノアリ。

15). 横行耻骨枝ノ開口部位ハ各例毎ニ多少ノ差異アリ、即チ95側 (^{116側(58屍)}中^{不明}21側) 中8側 $\left\langle \begin{smallmatrix} \text{右}^4 \text{側} \\ \text{左}^4 \text{側} \end{smallmatrix} \right\rangle$ 8.4%ハ直接股靜脈又ハ外腸骨靜脈ニ開口シ、其95側中87側 $\left\langle \begin{smallmatrix} \text{右}^{45} \text{側} \\ \text{左}^{42} \text{側} \end{smallmatrix} \right\rangle$ 91.6%ハ下腹壁靜脈ノ弓狀部ニ開口ス。

16). 横行耻骨枝ノ開口部ト下腹壁靜脈ノ下端ガ股靜脈ヘ開口スル部トノ距離ハ、兩側共ニ5乃至10mm. 最多ク2或ハ110mm. ノモノアルモ稀ナリ。

17). 内乳靜脈 (V. mammaria interna) ハ前胸壁ノ内面ニ於テ胸肋關節ヨリ稍々外側ヲ縱走ス。其經過ヲ通覽スルニ終始單一幹トシテ走行スルモノ (Fig. 3.) 148側 (82屍164側ナルモ其内不明16側) 中4側 $\left\langle \begin{smallmatrix} \text{右}^2 \delta^1 \text{♀}^1 \\ \text{左}^2 \delta^1 \text{♀}^1 \end{smallmatrix} \right\rangle$ 2.7%ナリ。其他ノ大部即チ148側中144側 $\left\langle \begin{smallmatrix} \text{右}^54 \delta^{20} \text{♀}^{20} \\ \text{左}^50 \delta^{20} \text{♀}^{20} \end{smallmatrix} \right\rangle$ 97.3%ハ下部分ガ分枝シテ兩脚ヲ有ス。(以下假ニ其兩脚ノ會合點ニテ上下二部分ニ分

チテ記載スベシ。) (Fig. 3.)

18). 内乳静脈ノ兩脚ノ會合點ハ各例ニヨリテ差異アリ。余ノ調査ノ結果ヲ表示スレバ別表ノ如シ。即チ會合點ノ高サハ各例ニヨリテ一定セズ。或肋間腔ニ相當スル高サニアル

合 一 點 部 位	左側頻度	右側頻度	144中頻度 總計	百分率
第Ⅰ<肋間腔 肋骨後面	2例 2%	5例 4%	7例 6%	4.9% 4.2%
第Ⅱ<肋間腔 肋骨後面	13% 9%	14% 1%	27% 10%	18.8% 6.9%
第Ⅲ<肋間腔 肋骨後面	19% 9%	13% 16%	32% 25%	22.2% 17.2%
第Ⅳ<肋間腔 肋骨後面	9% 4%	7% 5%	16% 9%	11.1% 6.3%
第Ⅴ<肋間腔 肋骨後面	2% 1%	5% 1%	7% 2%	4.9% 1.4%
第Ⅵ<肋間腔 肋骨後面	1% 0%	1% 0%	2% 0%	1.4% 0
第Ⅶ<肋間腔 肋骨後面	0% 0%	1% 0%	1% 0%	0.7% 0

事アリ。又或肋骨後面ノ高サニ位置スル事アリ。而シテ其頻度ノ百分率ヲ見ルー其中第Ⅲ肋間腔ノ高サニ在ルモノ最多シ。

19). 内乳静脈ハ常ニ同名動脈ニ隨伴ス。其兩者ノ位置的關係ハ兩脚ノ存スル部分ニ於テハ其間ニ動脈ガ介在セルモ、上方單脚トナリタル部分ニ於テハ靜脈ガ動脈ノ外側ニ在ル場合ト、内側ニ在ル場合トアリ。靜脈ガ動脈ヨリ外側ヲ經過スルモノハ147例〔八十二屍
164例中不明17〕
中7例<右♂2 ♀0
左♂3 ♀2側、〔他ニ朝鮮人3

屍、6例中1例(不明4例)〕、又靜脈ガ動脈ヨリ内側ヲ經過スルモノノ147例〔八十二屍
164例中不明17〕
中140例<右♂49 ♀22
左♂50 ♀19側、〔朝鮮人(3屍) 6例中1例(不明4例)〕ナリ。故ニ靜脈ガ動脈ヨリ外側ヲ經過スルモノノ少ナクモ4.8%ニシテ靜脈ガ動脈ヨリ内側ヲ經過スルモノノ少ナクモ95.2%ナリ。(Fig. 4.)

20). 内乳静脈ノ上方部分ノ上端ハ胸腔内ニ於ケル靜脈幹ニ入ル。此開口スル母幹モ亦各例ニヨリ又左右側ニヨリテ差異アリ。余ガ100例<左50例〔116例(58屍)
右50例 中16例不明〕ニ就テ調査シタル結果ニヨレバ次ノ如シ。即チ

{
 左側ニ於テ左無名靜脈ニ開口スルモノ50例<♂11 ♀39側100%
 右側ニ於テ右無名靜脈ニ開口スルモノ21例<♂16 ♀5側42%
 右側ニ於テ左右無名靜脈分枝點ニ開口スルモノ26例<♂20 ♀6側52%
 右側ニ於テ上空靜脈ニ開口スルモノ3例<♂3 ♀0側6%
 } (Fig. 5.)

〔朝鮮人6例(3屍)中2例♂2 ♀0側ハ左右共ニ無名靜脈ニ入ル(4例不明)〕。

21). 内乳静脈ノ下部分ニ屬スル兩脚中其外脚ハ多クノ場合ハ第Ⅶ. 肋間腔ニ沿フテ上横隔膜靜脈(V. phr. sup.) トナリ、其内脚ハ直ニ下行シテ季肋部軟骨弓ノ下縁ニテ上腹壁靜

脈ニ連續ス。

22. 内乳靜脈ノ内脚ハ劍狀突起上端ノ高サノ部ニテ吻合枝ヲ出シ、其前面ニ於テ左右側ノ内脚ガ互ニ相連絡シ、茲ニ横走セル靜脈吻合弓ヲ形成ス。此靜脈弓ノ存在率ヲ調査スルニ全例 (100%)ニ存シトシテ欠損スルモノヲ認メザリキ。此靜脈弓ニ向ツテハ嚮述セルガ如ク、兩側ノ臍旁劍狀靜脈ガ開口ス。(Fig. 6.)

23). 内乳靜脈ノ胸壁後面ヲ經過中ニ於テ、肋間組織ヲ垂直ニ穿通シテ皮下ノ靜脈ニ交通スルモノアリ、又肋間靜脈ニ連絡シ居ルモノモ存ス。

嚮筆ニ臨ミ恩師授教 木原卓三郎先生ノ熱誠ナル御鞭撻ト御援助ニ對シ、又名譽教授 足立文太郎先生ノ終始一貫懇篤ナル御指導ト御校閲トニ對シ謹ンデ謝意ヲ表ス。并ニ教室員各位ノ御後援ヲ謝ス。

附 圖 說 明

第 一 附 圖 右側ハ直腹筋ヲ翻轉シテ } 腹壁ノ深在靜脈ヲ示ス。
左側ハ腹膜ヲ露出シテ

Fig. 1 { V.E.I....左右下腹壁靜脈 M.T.I....横腹筋腱裏面
A.E.I....左右下腹壁動脈 M.T.....横腹筋腱表面
V.E.S....左右上腹壁靜脈 M.R.....直 腹 筋
R.N.C....Richet'sche Nabelcanal, L.T.H....肝 圓 靱 帶
V.P.臍 旁 靜 脈 L.P.....ブーバルト氏靱帶
V.P.X....臍旁劍狀靜脈 X... ..劍 狀 突 起
R.T.P....深在横行枝 S.....皮下靜脈連絡枝
P.....腹 膜 N.....臍

第 二 附 圖 肝鎌狀靱帶兩葉間ノ靜脈網ヲ示ス。

Fig. 2 { D=横隔膜附着縁 F.=肝鎌狀靱帶ノ一葉
P=前腹壁腹膜附着縁 L.T.H.=肝 圓 靱 帶
L.r.=肝 臟 右 葉 G.=膽 嚢
L.s.=肝 臟 左 葉 B.=肝鎌狀靱帶ノ一葉ヲ剥離翻轉セルモノ

第 三 附 圖 内乳靜脈ノ種々ナル形態ヲ示ス。

Fig. 3 { 左内乳靜脈 (V.M.I.S.) ノ兩脚ト合一點 (Z) ヲ示ス。
右内乳靜脈 (V.M.I.D.) 終始單一ナル狀ヲ示ス。

Fig. 4 { 右内乳靜脈 (V.M.I.D.) ガ同名動脈ノ内側ヲ通過セル狀ヲ示ス。
左内乳靜脈 (V.M.I.S.) ガ同名動脈ノ外側ヲ通過セル狀ヲ示ス。

Fig. 5 兩側内乳靜脈ノ無名靜脈 (V.A.) ニ連ル狀ヲ示ス。

Fig. 6 兩側内乳靜脈ガ劍狀突起前面ニテ吻合セル横枝 (R.T.M.) ト臍旁劍狀靜脈 (V.P.X.) ノ開口セル所ヲ示ス。

內藤論文附圖 (I)

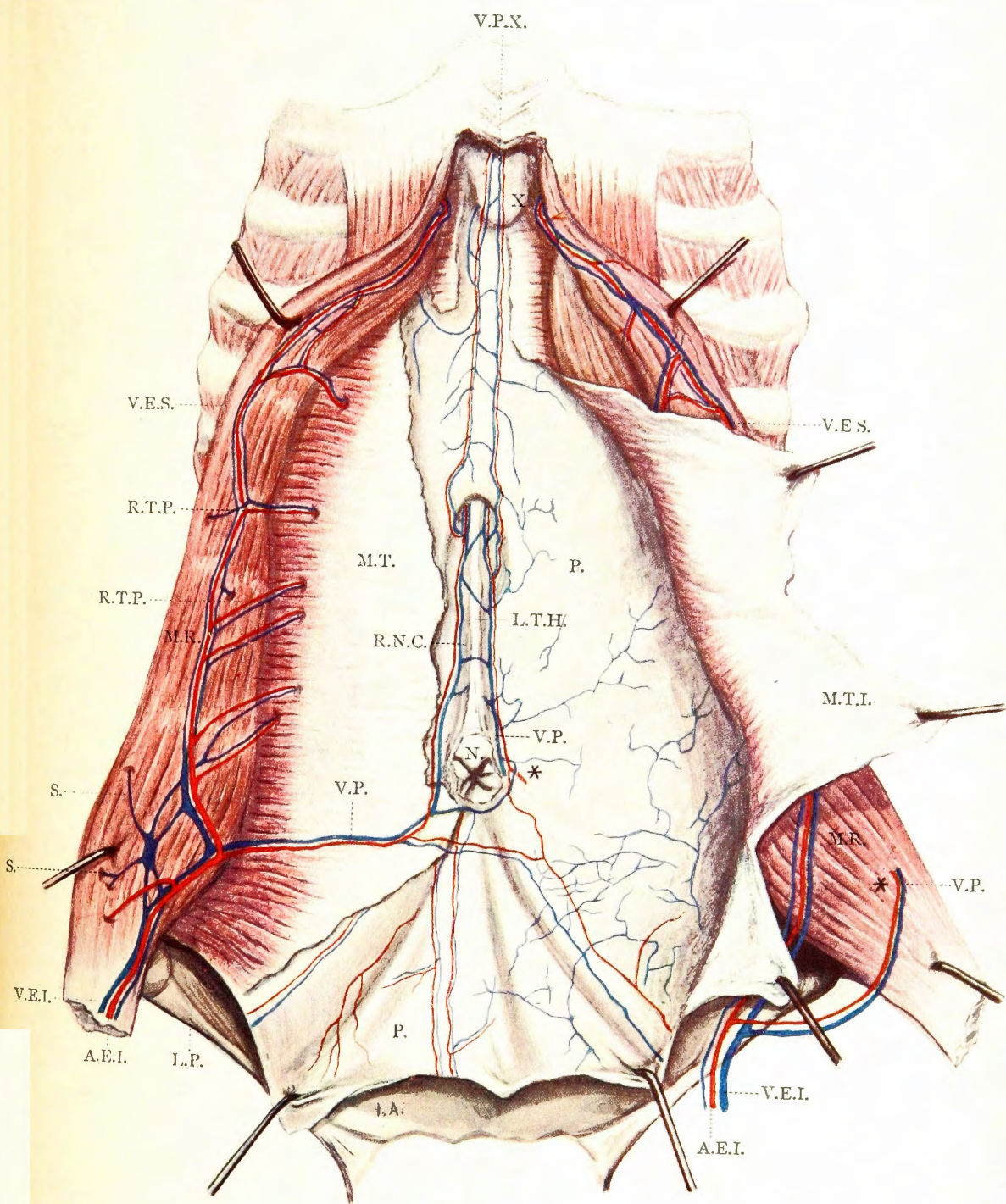


Fig. 1.

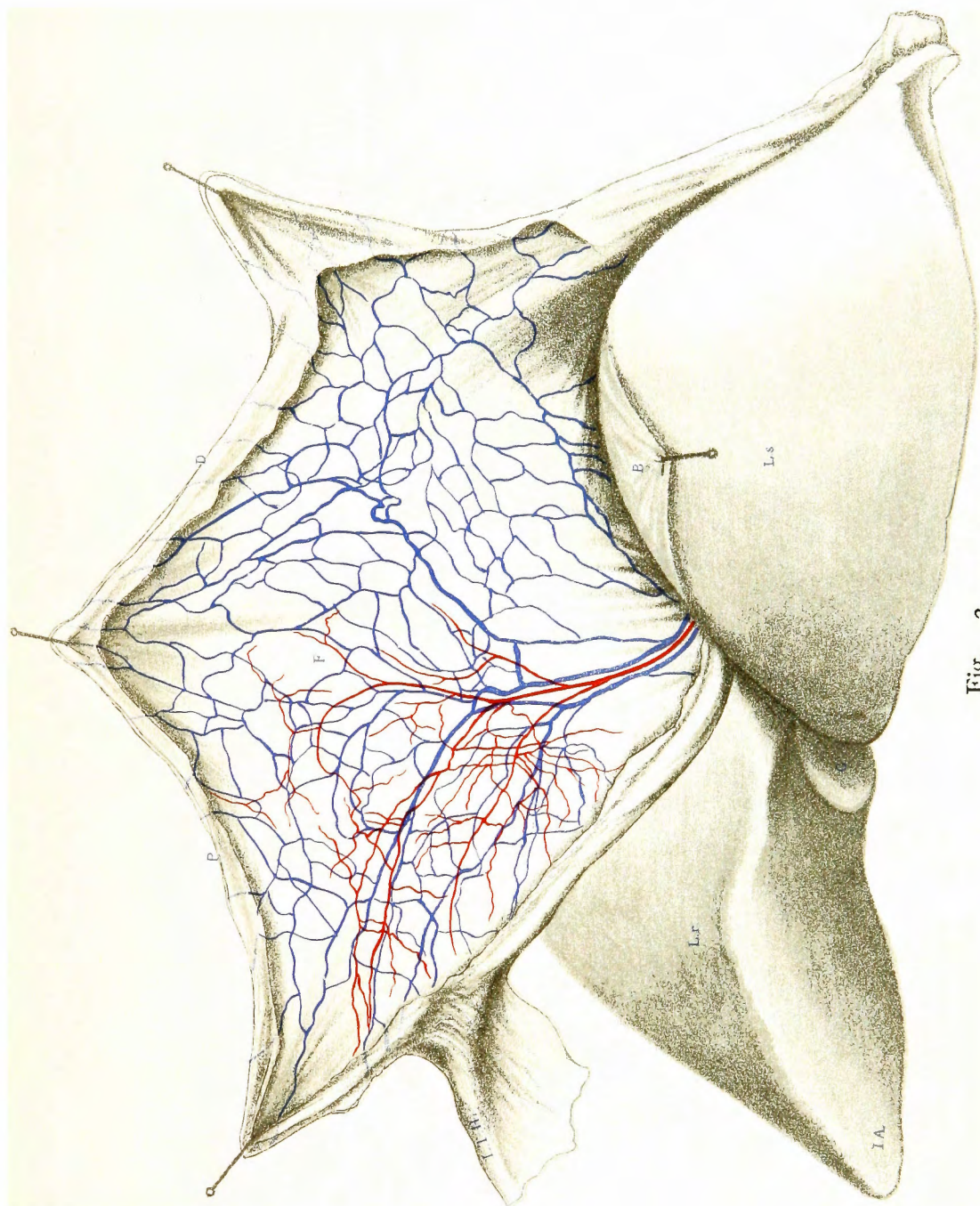


Fig. 2.



Fig. 3.

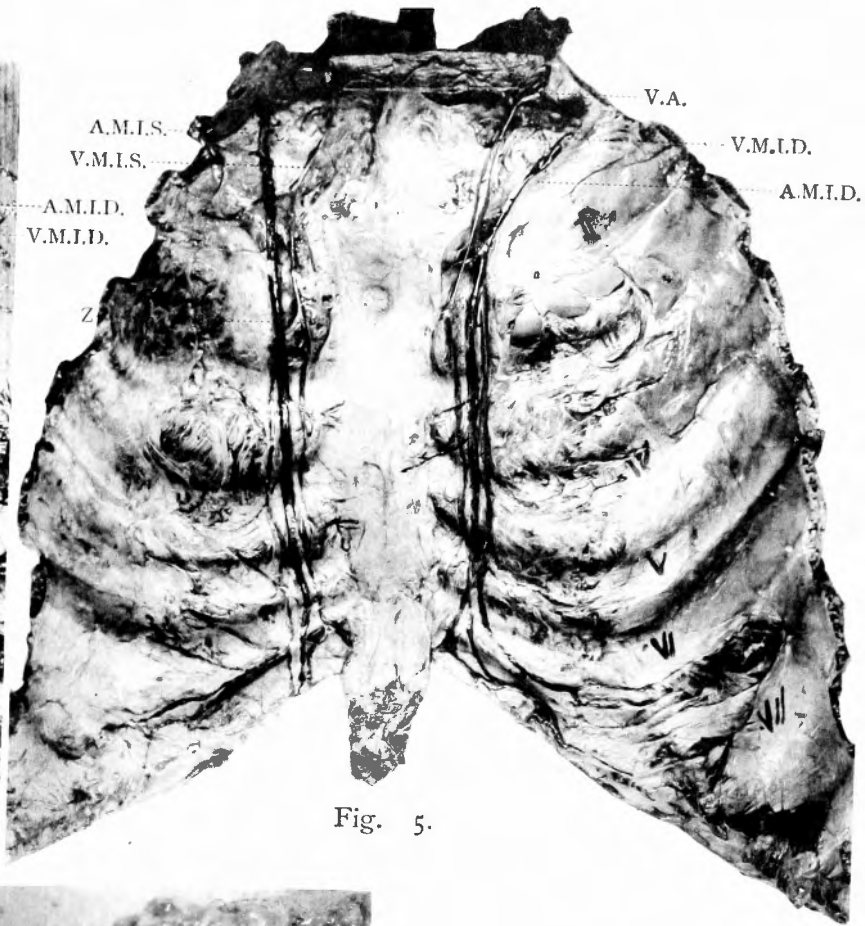


Fig. 5.



Fig. 4.

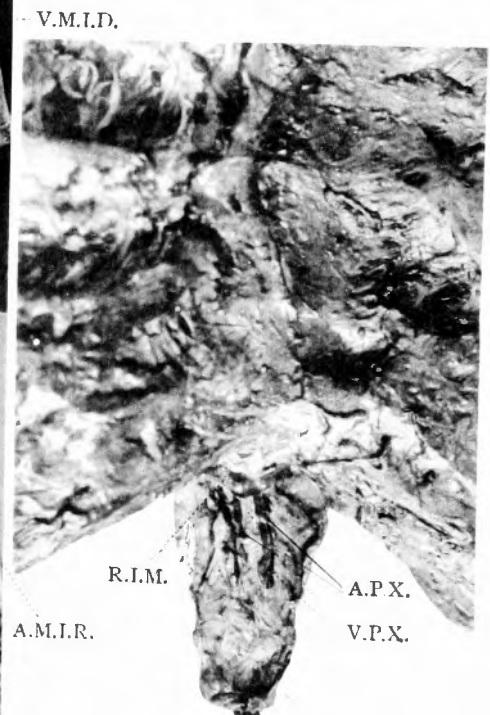


Fig. 6.